

平成23年度 第2回芦屋市立中学校の昼食の在り方を考える懇話会 会議録

日時 平成23年11月25日(金) 10:00~12:00

場所 芦屋市役所北館4階 教育委員会室

出席者

委員長 河合 優年
副委員長 増澤 康男
委員 笠原 清次
長谷川 則光
平岡 栄
氏原 佳代子
中塚 巳津子
堂脇 里真
入江 祝栄
片岡 登志子

教育委員会事務局

波多野 正和
丹下 秀夫
北野 章
西尾 節子
俵原 正仁
長谷川 真弓

会議の公表 ■公開

傍聴者数 13人

1 議 事

第1回の懇話会の協議をうけて
アンケート結果に係る質疑・意見交流
中学給食実施地域の視察について

2 内 容

＝開 会＝

管理部長 挨拶

11月15日から3日間、市内中学校の昼食参観では、現場まで御足労下さり、感謝申し上げます。本日の懇話会では、昼食に対するアンケートの結果が出ましたので、まだ単純集計の段階ではありますが、その結果も考慮に入れながら、中学校での望ましい昼食のあり方について、忌憚のないご意見をお願いします。

＝議 事＝

(1) 事務局より、資料の確認の後、資料に沿って趣旨説明をおこなう

- 資料 1 芦屋市立中学校の昼食参観の資料
資料 2 中学校の昼食を考えるためのアンケート結果報告書
中学生用, 保護者用 教職員用 市民用
資料 3 中学校昼食に係る視察候補校(案)

(2) 芦屋市立中学校にかかる昼食参観について

河合委員長: 最初に事務局から、昼食の参観についての説明をお願いします。

事務局/北野: 前回の懇話会では、市内中学校で販売されているパンについていろいろと質問がありました。そこで、今後の論議を進める前に芦屋市の子どもたちの昼食の実態を見ていただくのがいいと考え、委員の皆様にも賛同をいただき、11月15日に精道中学校、16日に潮見中学校、17日に山手中学校の昼食参観を行いました。資料写真は中塚委員から提供いただきました。精道中学校では、この日は生徒への弁当販売はなく、パン販売の様子を参観させていただきました。精道中学校の販売弁当は、潮見中学校と山手中学校とは異なる業者で、委員の皆様には販売弁当を試食していただきました。潮見中学校と山手中学校は、弁当販売日でしたので、弁当販売の様子を参観した後、試食していただきました。山手中学校のパン販売は、他の中学校とは異なり、予約制で、一袋に2つのパンが入っている2個パン、3つのパンが入っている3個パンを委員の皆様にも食べていただきました。曜日の関係もありますが、売れた弁当の数は、潮見中は3個で、翌日の山手中学校は34個でした。パンは、山手中学校は54セット売れており、売り場が大変にぎわっていました。今回、芦屋市の様子を見ていただいたので、今度は他市の給食実施校の様子を見ていただきたいと思います。

河合委員長: 実際の子どもの様子を見させていただき感謝しています。芦屋市の3中学校を見ていただき、感想や感じたことがありますか。今後、他市の状況と比較してからということによろしいですか。それでは、次にアンケート調査の結果について、事務局から説明をお願いします。

(3) アンケート結果に係る質疑・意見交流について

事務局/北野: アンケート結果報告書をもとに、説明。

河合委員長: クロス集計や自由記述の整理がまだということで、これが最終のものでないことをご理解の上で、考えてください。今、説明がありましたので、レジメの順番を入れ替えて、アンケートについて、まず話を進めたいと思います。例えば、この部分を分析してほしいというところがあれば言ってください。私は、小学生の子どもをお持ちの保護者の方の回答などを、クロスをしてほしいと思っています。このように、事実確認の部分で、確認しておきたいことがあれば出してください。

中塚委員: アンケートを見させてもらって、「夏場に食品の傷みの心配はなく、冬には温かい食事ができる」が多いと思ったのですが、私は夏でしたら保冷剤を入れることもあったし、今の学校はクーラーもありますよね。例えば、保冷剤を入れるよう、学校から手紙などを出してもらえれば、それまで入れてなかった家庭も気をつけるでしょう。精道中学校の場合、冬も、お弁当をジャーで持ってくる子も多いので、やり方

によっては、これはクリアできる問題ではないかと思いました。

片岡委員：アンケートは全体で4,000配布したのですよね。市民の回収率が悪くて、全体的には78.6%になったようですが、その中でも給食を実施する方がよいという意見が多かったですね。中学生も52.4%となっていますし、市民も71.1%、中学生の親も75.9%。やっぱり給食の実施を願っているのだなと思いました。先生方の48.9%ですが、これは先生方の仕事が増えることを懸念しているのかなと思いますが、それも、やり方によって改善できると思います。「給食実施に当たって心配すること」については、給食費の滞納問題が、市民も親も先生もすごく割合が高いのですが、実際のところ、小学校では、今、給食費を集める中で滞納はあるのでしょうか。

事務局/北野：直接、学校から滞納の報告を受けることはないのですが、決められた日までに給食費を納入することが難しい家庭があるという現実があります。それでも、担任の先生が個別に対応していく中で、遅れて振り込まれていると聞いています。他市の中で、実際に滞納問題で苦慮している実態は耳にはします。

片岡委員：滞納問題については、テレビなどでもよく聞きますが、滞納問題を心配する声がたくさんあることが、給食ができない原因ということではないのですね。

北野委員：はい、違います。

河合委員長：事実レベルで確認できることについては、資料等を準備していただきたい。私たちの思い込みで話が進まないようにしなければいけません。

入江委員：給食反対の意見を見ると、予算が十分にもらえるかどうか分からない中で実施するのは、とても危険だと思いますので、予算はどれぐらいもらえるものか教えていただきたい。お金が無尽蔵にあれば解決できる問題でしょうが、「教育事業費を縮小して」というのも、よくないことで、やはりお金の問題が関わってくると思います。市の財政状況を明確にしてもらえれば、納得する意見も出てくると思います。

河合委員長：このことは、また次に必ず取り上げましょう。

笠原委員：それぞれのアンケートを比べながら見るのがいいと思いますので、同じ観点で、比較した資料を事務局は出していただきたい。保護者のアンケートで、「心身の健やかな成長に影響しますか」という問いには、弁当、給食共に、半数以上「影響している」となっています。給食については、「バランスと献立の変化」「栄養バランス」と言うことで賛同しているのですが、例えば阪神間の給食を実施しているところで、どれぐらい体の成長に影響が出ているのか、そうでもないのか、そのようなデータが、もしあれば関心があります。

河合委員長：対応する項目を比較した資料を事務局は用意してもらえますか。また、他市の栄養のバランス、効果があるというような報告があるようでしたら、それも準備できますか。

増澤副委員長：もし、栄養バランスの問題で影響が出ているのなら、それは大問題で、データとして出ているものはないと思います。少なくとも、給食の場合は、一定レベルの栄養バランスが保たれており、保証があるということです。デリバリーなどで、業者が入った場合はわかりませんが、給食は、栄養バランスが保証されているという安心感があることはまちがいないです。

長谷川委員：費用のことを考えた時、具体的な金額はわかりませんが、億単位とは聞い

ています。初期費用に加えてランニングコストもありますので、後々のことも考えていかなければなりません。ただでさえ少ない教育費を削っての実施には賛成できません。アンケートでは保護者、市民の7割の人が賛成しているようですが、イメージとしては完全給食だと思いますので、その形で行うにはどれぐらいかかるのか知っておく必要があります。財布に100円しかないのに1000円のは買えませんから。

(4) 前回の協議を受けて

河合委員長：前回までの協議を受けて、この後は、決め方、あり方など、今思っていることを、お話いただきたい。率直な皆様の考えを伺った後、次回、実行可能性も検討し、それを報告書に入れていきます。一口に、給食の時間とありますが、ただ食べる時間ということだけでなく、その時に教師と子どもたちの間にいろいろなやり取りがあることを今回の視察で見させてもらいました。給食が実施されるとこうした十分な時間が取れないというような教員の要因、山手中学校のような地形における設置場所の問題、給食費や1週間の間に何日かでもお弁当から解放されるといった保護者の要因、食べる量に個人差があるアレルギーなどの生徒の要因、実際に給食を実施されれば短い昼の時間が確保できるのかなど、最終的には、実行可能性を探りながら、予算、物理的環境の問題、もし導入した場合の修正の可能性など、具体的に考えていかなければなりません。これからは、今回のアンケート調査に基づきながら議論して、最終的に、「こういう根拠があるので、こういう結論を出しました」という形にして、懇話会としての報告を出していきます。

増澤副委員：現在、給食の導入という話が、全県的に流れていますが、そのきっかけは、新学習指導要領に「食育」が明示されたことです。もともと「国民全体の健康」と「食料自給率」（農業振興）とが一つになった形で、食育基本法は成立しています。これを受けて、「学校で食育を」ということになりました。その時、それまで学校給食を支えてきた学校保健、体育が中心になって、食育を請け負う形になりました。そして文科省を通じて、給食を足場にして食育を進めていけばという流れが出てきました。確かに、給食を実施する理由として、食育があげられがちですが、この食育と学校給食の根っこは別で、食育基本法と学校の食育はねじれています。食育基本法には、「給食を足場にして食育を」とは書かれていません。

給食をするということは、学校が1/3の食事に責任を持つという宣言をすることで、これはとても大きな問題です。これを契機に、食育の問題を学校給食、学校教育の中に入れていくということになり、これを裏打ちする制度としては、栄養教諭というものがあります。この制度は兵庫県ではとても早く整備され、献立とかを作る栄養士さん全員が栄養教諭になりました。栄養教諭になって、何が変わってくるのかといえば、教壇に立って、直接、子どもたちに授業ができるということです。専門的な知識をもった栄養教諭が指導することによって、食育の内容もまた深まります。でも、これはお弁当でも本当はできるはずですが、本気になって、食育の授業をすれば、お弁当でもできる。でも、実際には誰がやるか、受け手がないということで、難しいのですが。「学校給食法」の中身が変わりまして、食育基本法をうけた形で、「給食は、食育を扱う」ということで、法律的には、給食を実施しているところは、食育をしなくちゃい

けないという形になりまして、それを盾に「給食をやります」というのは、それなりに説得力があるのですが、食育基本法とはもともとは別であり、給食がなくても食育はしなくてはいけない。逆に、給食があるということで、まる投げになって、やったことにしているところもあります。

片岡委員：私も「食育」は、給食が全てではないと思います。先日、精中にうかがったとき、毎月、食育のお手紙を出されているのを見させていただきました。あれはとてもいいことだと思いました。ただ、小学校の給食を見ていると、各学校に栄養士さんがおられて、毎日カロリー計算して、バランスを考えてつくられているので、食育的なことは小学校の給食では網羅されていると思うのです。精中、潮中を見させていただきましたが、どちらの学校も6人で固まってお弁当を食べていたので、給食になっても、当番の人が配膳して食べて、片付けもスムーズに入るのかなと思いました。昼休みが少なくなることが、アンケートにも書かれていましたが、それはやっているうちに解決していくと思うので、私はぜひぜひ給食をやってほしいと思います。経費の問題はありますが、西宮は50年近く前からあるし、宝塚でもあるし、「芦屋はなかったのですね」といわれるお母さんもたくさんいます。中学校も3校しかないので、やろうと思えば、できると思います。山中は見せてもらっていないので、階段式とか敷地の問題はよく分からないのですが、潮中は、ほんとに広々とした敷地で、潮中ならすぐにもできるような気がしました。思ったより、アンケート結果に賛成が多かったので、そういう方向の結論が出せるようにと思っています。

入江委員：私は精中と山中を参観させていただき、精中も山中も、家庭科の中で食育を一生懸命していることを見してもらいました。また、山中では数年前、外に出た子を総動員で探していたことがあったと聞かせてもらい、学校現場は人手が足りないということを感じました。今、娘が中学一年生ですが、山中では、今年は障害のあるお子さんが増えていると聞いて、ますます人手が足りないなと思いました。中学生のアンケートに、昼食を食べない子が2.6%いますが、なぜ食べない生徒がいるのでしょうか。結局、先生方が目を配っていても、人手が足りないということです。給食も大切ですが、予算が足りないのなら、まず人を増やしてほしいと痛感しました。

今すぐできることとして、精中と山中の二つの中学校のお弁当を見せてもらったのですが、精中のお弁当は、容器もリサイクルで、バランスも取れていましたので、精道のお弁当を三つの中学校が統一して取っていただければいいなと思いました。

河合委員長：給食も大事だけど、今、中学生生活に必要なことを精査してほしいということですか。

入江委員：今すぐ手をかけてほしいところから、まず、すくい上げてほしいということです。給食もみんなが食べられるという意味で賛成ですが、実際に中学校を見せていただいて、人手が足りないということが一番の問題だと、そう感じました。

河合委員長：皆さんのお聞きしたことを整理して、次回事務局とも調整して、こういう風に考えていますというように、一つひとつパーツを作っていくといけませんね。

堂脇委員：給食にかわったとしても、そこにある問題はかわっていかないと思います。実際、お弁当で愛情があるかどうかということはわかりませんが、親子のつながり、体調とかも分かりますし、お弁当は、私は続けてほしいなと思っています。潮中を見

させてもらいましたが、パンを買いに行く子は行くし、お弁当の子はお弁当ということで、自分たちのペースがすでにできあがっていて、その中で、先生たちと話をして、短い時間だけと和気あいあいとしているあの時間を大切にしてほしい。それと、現場の先生が一番、持ってきていないお子さんのことをご存知だと思います。どうしてパンを買っているのか、どうしていつも弁当を買っているのか、それをご存知の先生方が出されたアンケートの結果ですよね。全部をすべてクリアにするのは本当に難しいことで、どこをメインにするのか。たとえば、給食にしたとしても、給食がとても苦痛な子もいるわけです。そこを限られた財政の中で、「今、してほしいこと」「今、芦屋の教育の中でしてほしいこと」をきちんと見極めてもらって、その中で給食が必然となれば、その時にそれを協議していけばいいと思います。今は、もう少し、先生方に子どもたちと向き合った時間を持ってほしい。そのために、保護者が助けることができることがあるのなら、私はやりたいと思います。それがお弁当なら、やはり、お弁当は、親の責任です。私自身は苦になりませんでしたし、それが育て上げる義務だと思います。三つしか中学校がないという芦屋のカラーを生かした、親も近い、先生も近い、距離感も近いその中で、昼食の在り方を考えていきたいと思っています。

中塚委員：私は3校行かせていただきました。学校の昼食の時間やパンの販売だけじゃなくて、各校の特色というか個性的なところもわかりました。とても、みんな楽しそうにしていたことが印象的でした。3中どこもいっしょなのは、どの教室も担任の先生と一緒に食べていたことです。お弁当の子も、パンを買った子も、どこの子も楽しんで食べているのを見て、ホッとして帰ってきました。小学校のお母さんの「給食を」という気持ちは分からないではなく、私も小学校の保護者だったら思うと思います。でも、中学校に行くと、定期テストがあったり、お昼時間が短かったり、部活があったりという中学校のカリキュラムを知ってしまうと、給食の時間のしわ寄せが、他にいくのではという心配が親としてはあります。今、チューター制度というのがあり、数学の時間に先生がもう一人授業に入って、授業が分かりにくい子に教えていただいているのが、すごくありがたいです。よく財源の問題が話になりますが、精中の1年生で、「給食にお金を使うなら、年金に使った方がいいのでは」と言っていた子がいたそうです。確かに、子どもや保護者が「給食を望む」にマルをしています。ただ「給食がいいか？お弁当がいいか？」と聞かれて、「温かいからいい」というような表面的なことぐらいしか見ていないのかなと思います。財政のこと、税金のことがどれぐらい何にかかって、給食をするとどれだけかかるのかということを確認にして、市民の方にお伝えして、考えてもらえればと思います。また、子どもがどう思っているのか、子どもの教育がどうなっていくのかを一番に考えるべきで、親は子どもにできることを最低限やり、学校には子どもの教育のことをお願いしたいと思います。

氏原委員：下の子が、小2なのですが、1年生の時は、かなり偏食があり、学校は楽しいけど給食がいやで、学校がいやだという時期がありました。今は、昔と違って、「食べ終わるまで何が何でも食べないといけない。」ではなくて、最初にいやなものを残させてくれますね。今日何を食べたのと聞いてみたら、いろいろと残っていて、「ご飯と味噌汁とみかんを食べた」と言っていたこともありました。小学校の給食は、とてもバランスがよくて、献立票を見ても、青いものもあり、赤いものもあり、黄色い

ものもありで、ばっちりだなと思っていたら、実は食べていなかったということも多いのですよね。残飯もたくさんあると聞きました。いい部分だけでなく、負の部分もあることも表に出してほしいと思います。また、「デリバリーでも、センター方式でもいい」という意見が多いことにびっくりしました。「小学校の給食がそのまま中学校でも食べられるのならいいけど、それ以外は・・・」というお母さんが多いと思っていましたので。回答された方は、本当のところ、センター方式がどのようなものかご存知なのかなと思っています。

平岡委員: 今日初めてアンケートの結果を見させていただいて、答えられた人数分だけ、意見があるなと感じました。いろいろな視点があり、給食がどうかとかは、一概に言うことはできません。ただ、現場の意見としては、今の流れが当たり前の風景になっているので、そこに給食が入ってきて、「どうなるのか？」という思いはあります。想像の世界になりますが、たしかに多忙感を感じるようになると思います。滞納問題については、家庭的な背景で就学奨励費を受けている家庭の中で、就学奨励費が個人の口座に入っているにもかかわらず、学校には納めてくれないということがあります。担任又は会計の担当の先生が、そのことをお伝えすることに、毎月、心が痛む、そういう状態です。昼食の風景を見ていると、その裏の保護者の風景が見えてきます。学校と家庭がつながっていることを感じます。子どもたちも次に親となっていきます。そのような子どもたちを、学校でどう育てるか、家庭でどう育てるか、家庭の力はありがたい力だということなど、子どもたちのお弁当を食べている様子を見て考えています。家庭科の授業の中では、家の人や、普段、弁当づくりにどんな苦勞をしているのか、その一端を経験させることによって、自分もつくりたい、将来的にはつくってみたいという子どもたちを育てたいと思っています。また、自分の食べる弁当を作るということだけでなく、社会に出る前にどんな力をつけていきたいのかも考えています。食育だよりについては、これからも、できるだけ出していきます。

長谷川委員: 「教師の負担が増える」「多忙感」このことの何が問題かということ、生徒と接する時間が減るということです。今、昼食や昼休みの時間を使って、生徒と話をしたり、会議をしたりしているのですが、他市の様子を聞いてみると、それがなかなかできないという現状があります。ですから、こういう時間を確保しておきたいということ。一番の問題は、子どもと接する時間がなくなるということなのです。他に給食のデメリットという、アレルギー、食中毒、いたずら、残飯などの問題があげられます。実際、給食が実施されるようになれば、給食委員会というものも作らないといけないし、担当する先生も必要になります。学校を運営する立場としては、それだけいろいろな準備が必要になり、「また先生の数が必要になる」という心配があります。それと比べて、給食を実施することによってどれだけメリットがあるのか疑問です。偏食で給食が食べられず苦痛を感じる子もいると聞いています。実は私もそうでした。給食費の滞納問題ですが、現在教材費を払えない人が結構おられます。卒業してしまい、4月になってもまだの人もいます。給食が始まると、このような問題が増えることが、気になります。食育については、2年生の総合の学習の時間に、市役所の出前講座を依頼し食のバランスについて学んだり、西宮のボランティア団体を招いて、おにぎり作りに取り組んだりしました。そこで学んだことを生かして、12

月に、おにぎり弁当日を計画しています。これが、実感できる食育だと思います。今、最も気になることは、山中と精中の校舎の建て替えです。市内で一番、校舎が老朽化しているので、予算があるならば、ぜひそちらのほうに回してほしいです。

笠原委員：子どもたちのアンケート結果を見ると、子どもたちなりに考えているなと思いました。54%の生徒が給食に賛成しているのですが、その理由の1/3がお家の人に負担があるからと答えています。家庭での負担感を感じて答えているというのは、割り引いて考えてやらないといけないと思います。小学校は6年生でも、40分間で食べ終わらない子もいます。「時間がきたら終わり」という指導は私の学校ではしていません。「食べきるまでは、だめだ」という指導も徹底はしていません。その中ほど、大きな負担にならないように、食べきる量も本人の申告を受けて、ただし指導を入れながら食べる時間と食べる量を考えながらしているということです。1年生から偏食指導をしています。すぐに指導が必要でなくなる子もいれば、6年経っても指導を受けている子がいるのも現状です。「給食指導が教育」と考えると、先生方は本気で向かいます。それが、好き嫌いがなくなるといういい面に行くこともあれば、場合によっては給食がいやになるということも過去にはありました。6年間食べ続けた子どもたちの半分以上が給食を食べたいというアンケート結果をどう捉えるかは微妙ですけれど。

精中ではお弁当とお昼休みで45分と聞きましたが、給食を実施すると必ず影響が出てきます。「影響が出たとしてもそれだけの意味があるのだ。」ということになればいいのですが、「ただ単にどちらがいいのか。」という問題だけではありません。

増澤副委員長：給食を希望する中学生は意外と多いなと思いました。また、市民の方の希望も多く、これは、かなり重いなと感じました。特に、市民の71.1%、これをくつつがえして、昼食は今のままでというのは、かなりの説得力がないといけません。この数字が出ていることはよく考えていかないといけません。今の学校の雰囲気、先生が大変だからという理由では弱いです。それから、中学校の先生の意見として、現在給食を実施している先生の意見を、例えば視察に行き、その市の先生はどう思うのかという意見も聞きたいですね。それで、時間が切迫しているというのが出れば、それはそれで一つの根拠になると思います。これだけの先生が反対している中で、「それでもやれ」というのも言い辛い数字ではありますので、できるだけ、数字が出るものはしっかり出していかないといけません。

(5) 今後の日程について

事務局/北野：中学校昼食に係る視察については、第3回の懇話会を1月末に計画していますので、日程的に視察は2回程度と考えています。受入側の都合もあるので、事務局からの提案として、宝塚市に12月19日頃、三木市に1月12日又は13日頃の実施を考えております。異論がなければ、詳細は、後日連絡いたします。

＝閉 会＝